近世地方陰陽師の土公神祭文

奈良暦師吉川家文書より

松山由布子

The Text of Doku-jin Saimon Used by the Local Onmyōji in Early Modern Era : from the Yoshikawa Family Documents of the Calendar Craftsmen in Nara

MATSUYAMA Yuko

はじめに
❶吉川家本『土公神祭文』の概要と成立・伝来・継承
❷吉川家本『土公神祭文』の内容とその特徴
小括
翻刻

[論文要旨]

本稿は、国立歴史民俗博物館収蔵「奈良暦師吉川家文書」の『土公神祭文』[H 6 7 9・8・1 0 8]（以下、吉川家本『土公神祭文』）について取り上げる。吉川家は、近世に大和国添上郡奈良町内の陰陽町を拠点として、暦を製作・頒布した暦師兼陰陽師である。吉川家は、暦を土産として檀那場を廻り、陰陽師としての祭事も行っていた。吉川家文書からは、近世から近代初頭における地方陰陽師の活動の実態や、彼らが保有した知識について知ることが出来る。

本稿では、吉川家本『土公神祭文』の書誌を通して、本書の概要や成立・伝来・継承に関わる情報についてまとめ、また内容上の特徴について詳述する。これらを通して、近世地方陰陽師の祭文としての本書の歴史・文化的位相を明らかにする。また巻末には祭文の翻刻を掲載する。

吉川家文書全体の構成から、同家では、祭事に関わる多様な儀礼詞章を収集していたことが知られる。この吉川家本『土公神祭文』もその一つであり、寛永十九年（一六四二）に南都にて成立し、その後、吉川家の所有となったと考えられる。本書には、仏教的表現を陰陽道書や陰陽道祭文の表現に改訂した箇所が随所に見られ、吉川家では陰陽道祭の祭文として用いられていたことが推察される。祭文の内容の中心となる五龍王説話については、中世末期頃の寺社に伝来した土公神祭文と共通する表現が用いられているほか、五郎の王子を「獰猛な悪竜」と表現する描写や話の展開等に、他の土公神祭文には見られない独自性も見出される。また中世以来の南都における陰陽道の学知的広がりと、本書との関わりについても注目される。

【キーワード】 土公神祭文、陰陽師、儀礼、五龍王説話、学知